

公立大学法人名古屋市立大学 令和2年度業務実績に関する評価結果（概要）

評価結果

**全体評価**  
 令和2年度は、年度計画を計画どおり遂行しており、中期目標の達成に向け順調に業務を実施しているものと認められる。

項目別評価

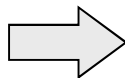
大項目名 (小項目数:72)	評価	小項目評価				大項目評価	(参考) 前年度 評価結果
		IV	III	II	I		
教育 (26)	計画どおり実施 ※						おおむね 計画どおり 実施
研究 (6)	計画どおり実施 ※						計画どおり 実施
社会貢献 (4)	1	3	0	0	A	B	
国際化 (6)	0	6	0	0	A	A	
附属病院 (11)	0	11	0	0	A	B	
業務運営の改善及び効率化 (3)	0	3	0	0	A	A	
財務内容の改善 (7)	0	7	0	0	A	A	
自己点検・評価、情報の提供等 (2)	1	1	0	0	A	S	
その他の業務運営 (7)	0	7	0	0	A	A	

※ 教育・研究については、地方独立行政法人法第69条の規定により、その特性に留意し、小項目評価及び大項目評価は行わず、事業の進捗状況を客観的外形的に確認する。

評価の基準

小項目評価（評価した小項目数：40）

IV：年度計画を上回って実施している(2)
III：年度計画を順調に実施している(38)
II：年度計画を十分には実施していない(0)
I：年度計画を実施していない、または大幅に下回っている(0)



大項目評価（評価した大項目数：7）

S：特筆すべき進行状況(特に認める場合)(0)
A：計画どおり(すべてⅢ～Ⅳ)(7)
B：おおむね計画どおり(Ⅲ～Ⅳが9割以上)(0)
C：やや遅れている(Ⅲ～Ⅳが9割未満)(0)
D：重大な改善事項あり(特に認める場合)(0)

## 特筆すべき主な取り組み

### ① コロナ禍における市民公開講座の開催及び「名市大ブックス」の出版

⇒ 新型コロナウイルス感染症の影響により、社会全体で多くの生涯学習講座が中止・延期を余儀なくされる中、市民公開講座を、徹底した感染症対策を講じ、市民の生涯学習ニーズに応える講座として開催した。また、学びの機会が減少する中で、with コロナ時代に手軽に知識・教養を得ることができる新たな社会貢献活動として、「名市大ブックス」を企画・出版し、コロナ禍での生涯学習ニーズに応えた。

### ② 市立東部・西部医療センターの大学病院化

⇒ 市立東部・西部医療センターの大学病院化に向けて、大学病院化準備委員会を立ち上げ、総務局、病院局、市立大学の三者で定期的に会合を行い、理念や基本方針、統合後の組織体制、職員の勤務条件の整理などの解決すべき課題について検討を進め、令和3年4月1日の大学病院化を実現した。

### ③ 適切かつ有効なメディアを活用した大学広報の推進

⇒ スマホサイトの使いやすさ等を調査する「大学スマホサイト・ユーザビリティ調査 2020-2021」において、2年連続で全国 262 大学中1位と高い評価を得た。

## 遅れている取り組み

特になし

## 主な意見、指摘事項

### ①教育について

⇒ 看護学部卒業生の看護実践能力の比較分析の結果、名古屋市立大学卒業生の自己評価及び他者評価ともに、他大学卒業生より1項目を除き得点が高かったことは評価できる。その理由をよく分析し、今後の改善につなげていただきたい。

### ②国際化について

⇒ 新たに2校と大学間交流協定を締結し、協定校数が増加したことは評価できる。今後、海外の大学とのネットワーク形成や留学プログラムの充実など、協定を実質化できるよう期待したい。

### ③附属病院及びその他の業務運営について

⇒ 市立東部・西部医療センターの大学病院化については、理事長のリーダーシップのもと法人をあげて難しい大プロジェクトに取り組み、課題の検討を進めるにとどまらず、令和3年4月の大学病院化を実現したことは高く評価できる。今後、3病院が一体となって、医療安全の推進、共同購入の推進などの課題の検討をすすめ、市民に安全で安心な医療を提供することで、大学病院化の目的を達成できるよう取り組んでいただきたい。